

# 2021年3月期 決算説明会

---

2021年5月19日  
八千代工業株式会社

## ■ 決算説明

経理部長

栗原 義弘

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

加藤 憲嗣

## ■ 決算説明

経理部長

栗原 義弘

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

加藤 憲嗣

- 2021年3月期 連結決算
- 2022年3月期 連結業績見通し

- 2021年3月期 連結決算
- 2022年3月期 連結業績見通し

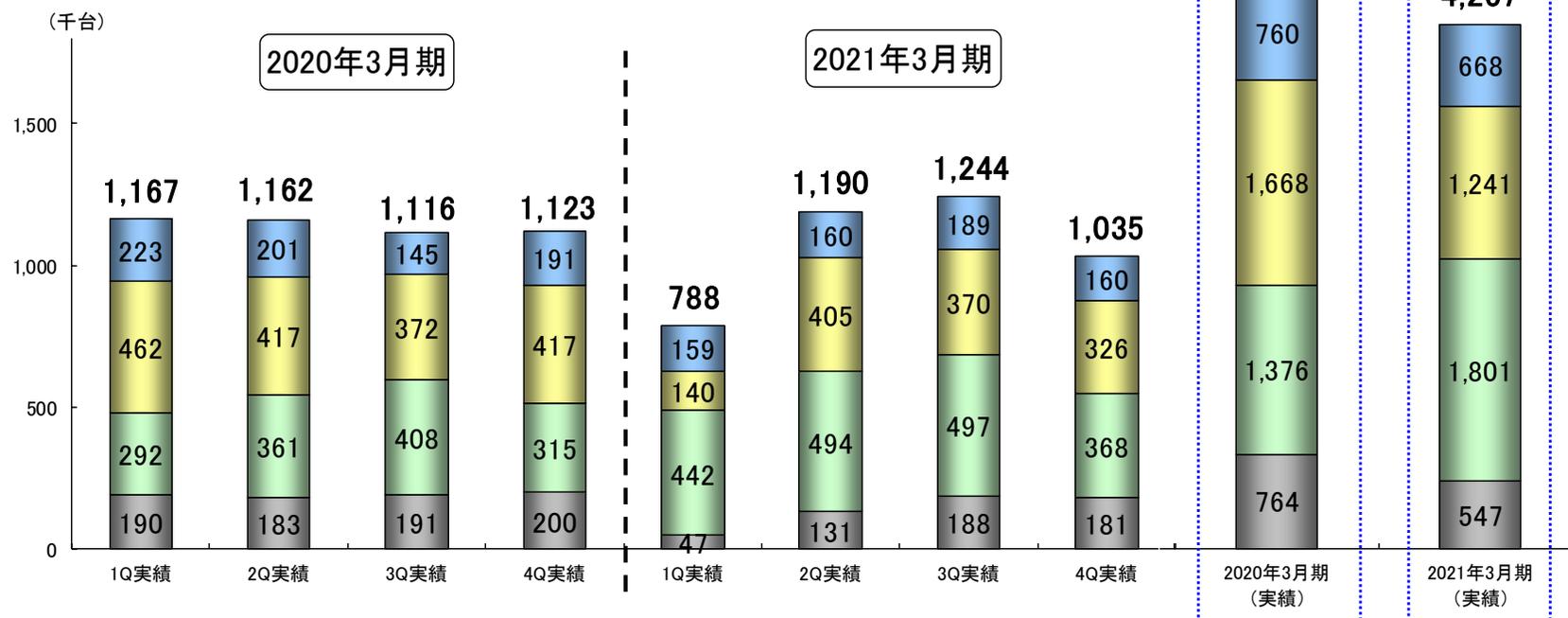
## 2021年3月期（12ヶ月間）連結業績（IFRS）

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
売上収益	1,546億円	1,572億円	+26億円 (+1.7%)
営業利益 (対売上収益比率)	9.9億円 (+0.6%)	56.3億円 (+3.6%)	+46.4億円 (+467.4%)
税引前当期利益 (対売上収益比率)	8.1億円 (+0.5%)	61.1億円 (+3.9%)	+53.0億円 (+657.5%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	-31.7億円 (-2.0%)	6.7億円 (+0.4%)	+38.3億円 (-%)
為替レート (USDドル)	109円	106円	3円 円高

# 2021年3月期（12ヶ月間）燃料タンク概況

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
生産台数合計	4,568千台	4,257千台	-311千台 (-6.8%)
日本	760千台	668千台	-92千台 (-12.1%)
米州	1,668千台	1,241千台	-427千台 (-25.6%)
中国	1,376千台	1,801千台	+425千台 (+30.9%)
アジア	764千台	547千台	-217千台 (-28.3%)
売上収益	419億円	443億円	+24億円 (+5.7%)
内、為替影響	-	-5億円	+29億円 (+6.9%) ← 実質的な売上増

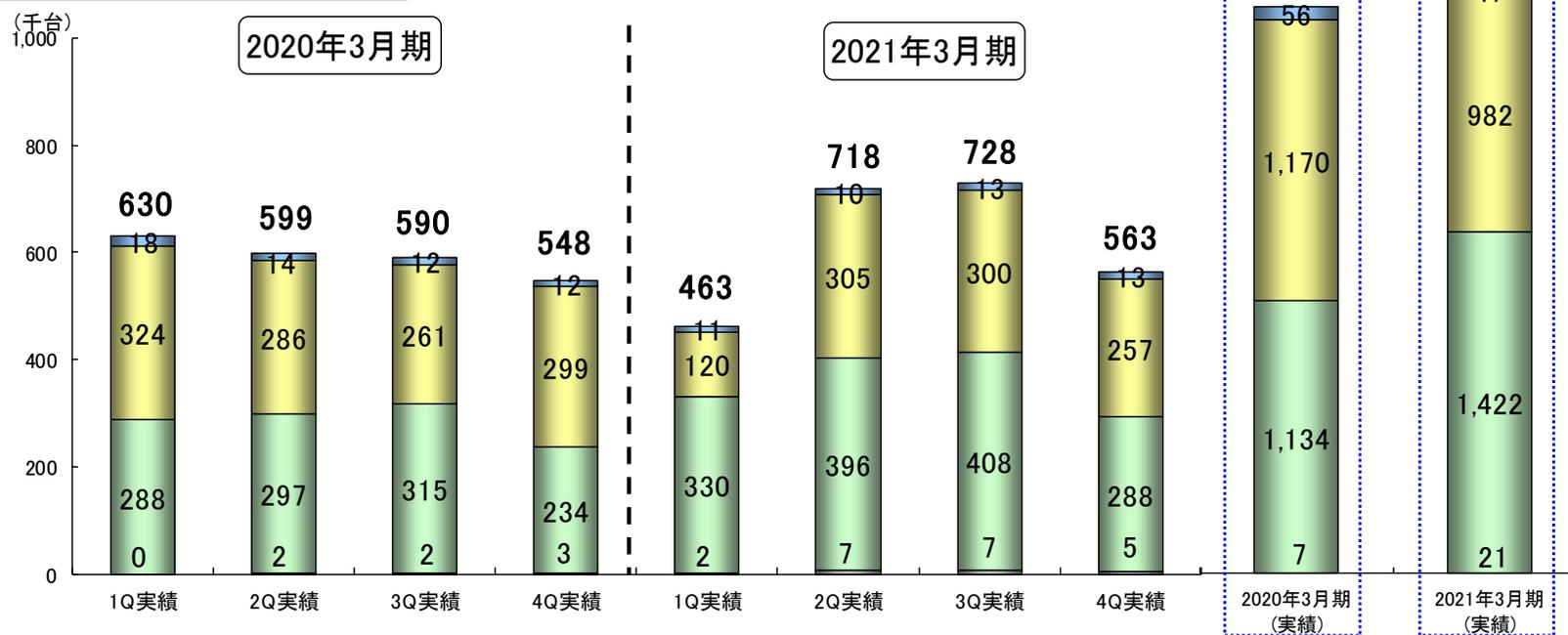
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



# 2021年3月期（12ヶ月間） サンプル概況

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
生産台数合計	2,367千台	2,472千台	+105千台 (+4.5%)
日本	56千台	47千台	-9千台 (-14.1%)
米州	1,170千台	982千台	-188千台 (-16.0%)
中国	1,134千台	1,422千台	+288千台 (+25.4%)
アジア	7千台	21千台	+14千台 (+166.6%)
売上収益	420億円	506億円	+86億円 (+20.4%)
内、為替影響	-	-3億円	+89億円 ← 実質的な売上増 (+21.0%)

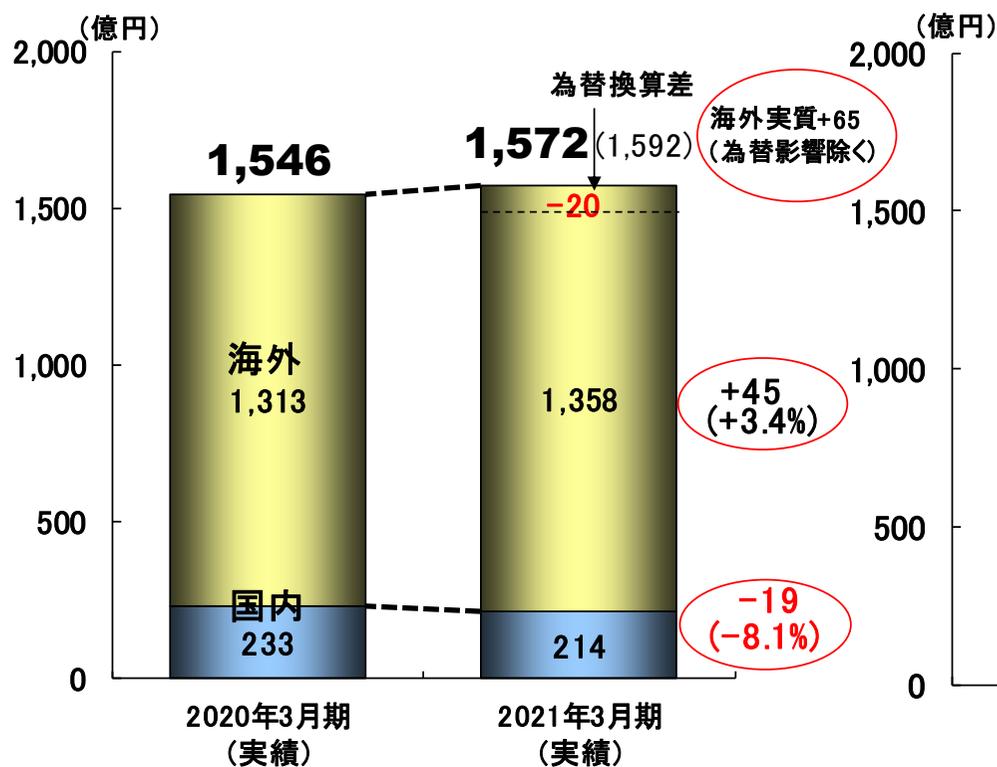
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



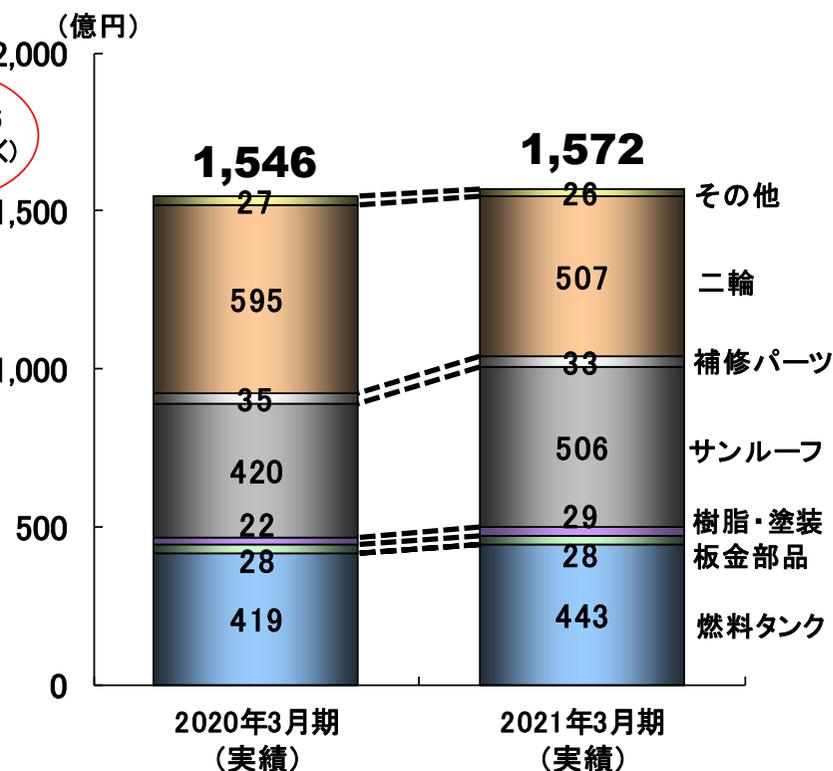
# 2021年3月期（12ヶ月間）製品別売上概況

	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
売上収益	1,546億円	1,572億円	+26億円 (+1.7%)

## 国内／海外区分

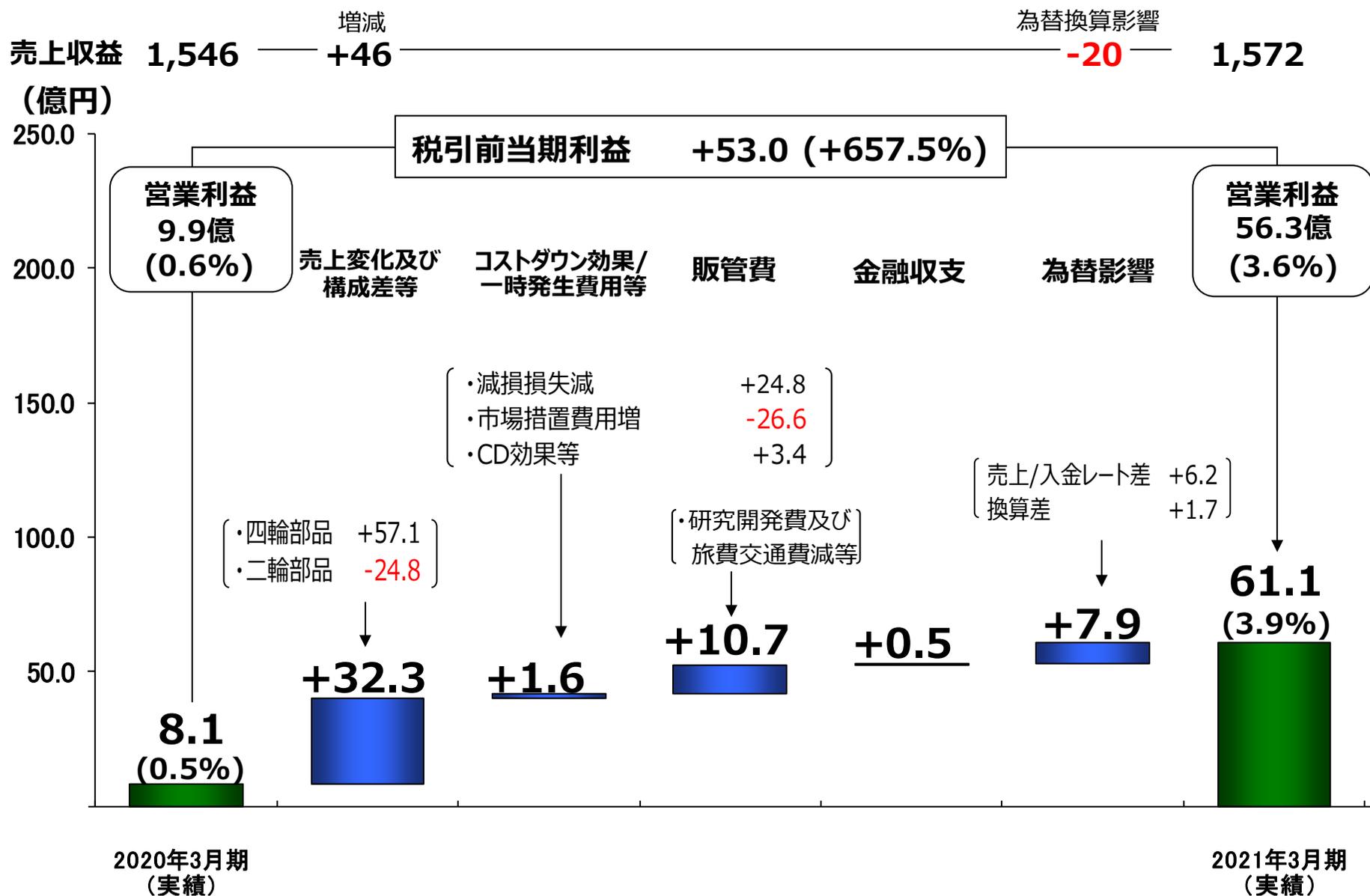


## 部品別区分



# 2021年3月期 連結税引前利益増減要因（前期比）

(単位：億円)



# 2021年3月期 (12ヶ月間) 所在地別セグメント情報

(単位：億円)

## 【日本】

<b>売上収益 -19</b>	
・四輪部品売上減	+0
・二輪部品売上減	-19
<b>税引前当期利益 +51.0</b>	
・売上変化及び機種構成差	-0.7
・ロイヤリティ増	+9.0
・減損損失減	+27.3
・研究開発費減	+2.0
・販管費減	+8.6
・為替影響/金融収支	+4.8

## 【米州】

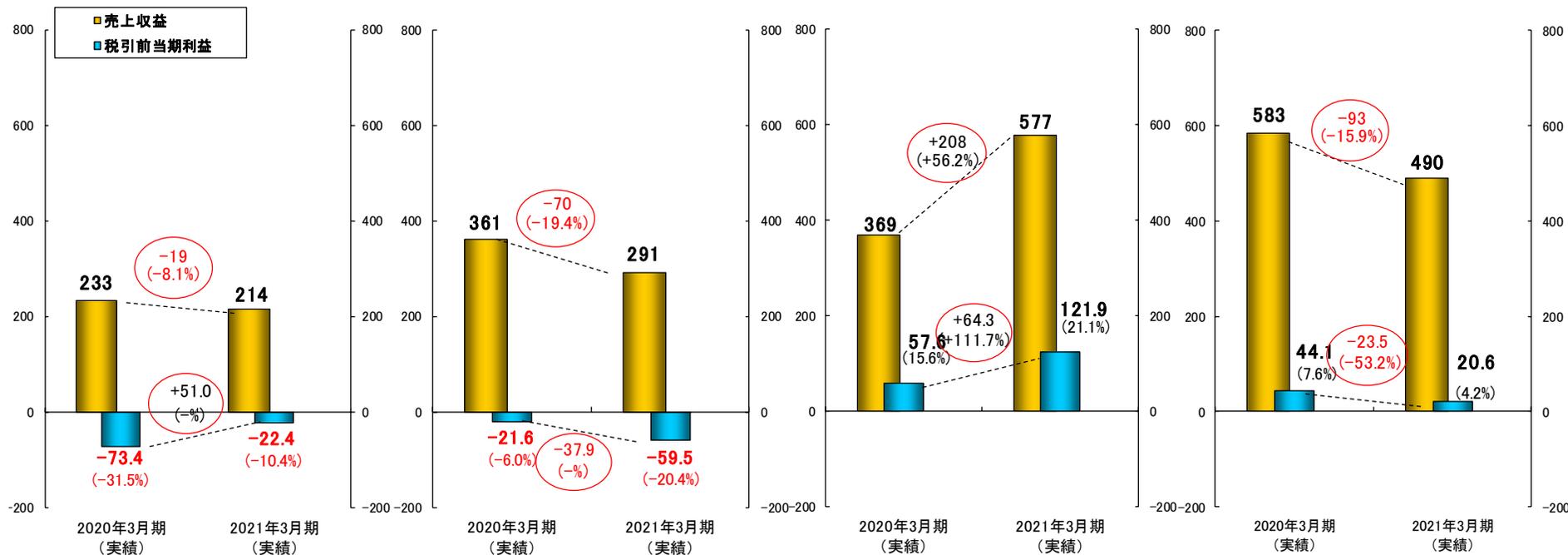
<b>売上収益 -70</b>	
・四輪部品売上減	-61
・為替影響	-9
<b>税引前当期利益 -37.9</b>	
・売上変化及び機種構成差	-11.9
・市場措置費用増	-26.6
・減損損失増	-2.7
・販管費減	+1.5
・為替影響/金融収支	+1.8

## 【中国】

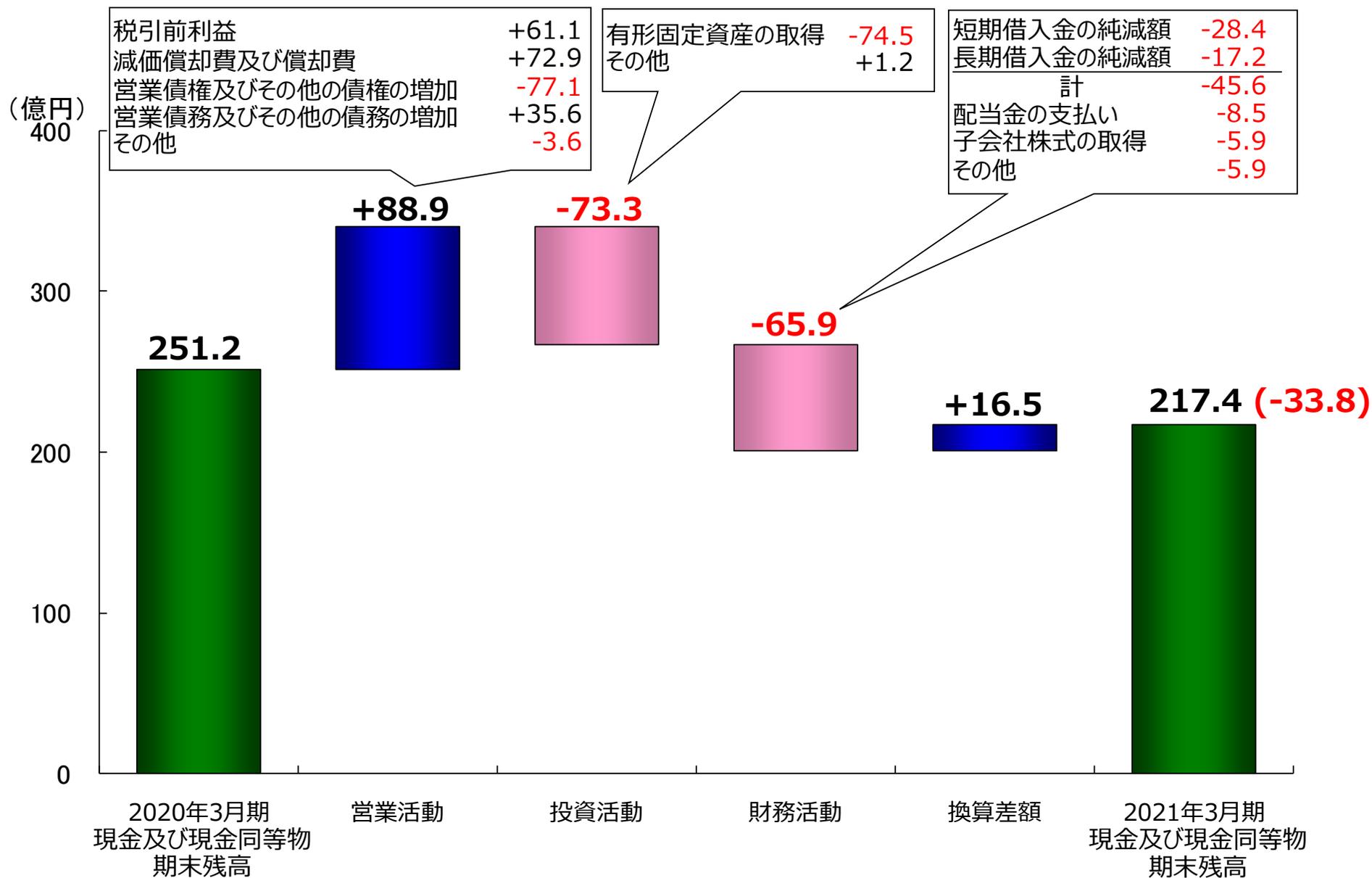
<b>売上収益 +208</b>	
・四輪部品売上増	+205
・為替影響	+3
<b>税引前当期利益 +64.3</b>	
・売上変化及び機種構成差	+61.9
・販管費減	+1.4
・為替影響/金融収支	+1.0

## 【アジア】

<b>売上収益 -93</b>	
・四輪部品売上減	-12
・二輪部品売上減	-67
・為替影響	-14
<b>税引前当期利益 -23.5</b>	
・売上変化及び機種構成差	-26.0
・減損損失減	+1.2
・販管費減	+0.5
・為替影響/金融収支	+0.8



# 2021年3月期 連結キャッシュ・フロー

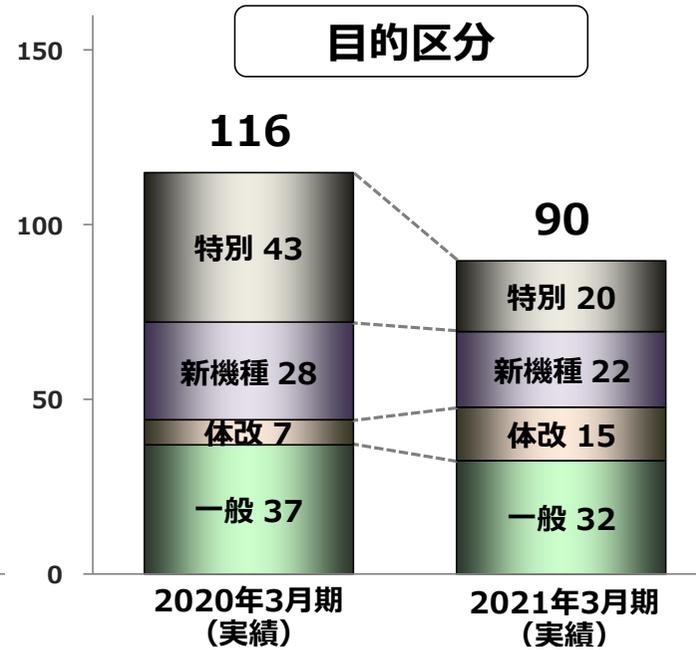
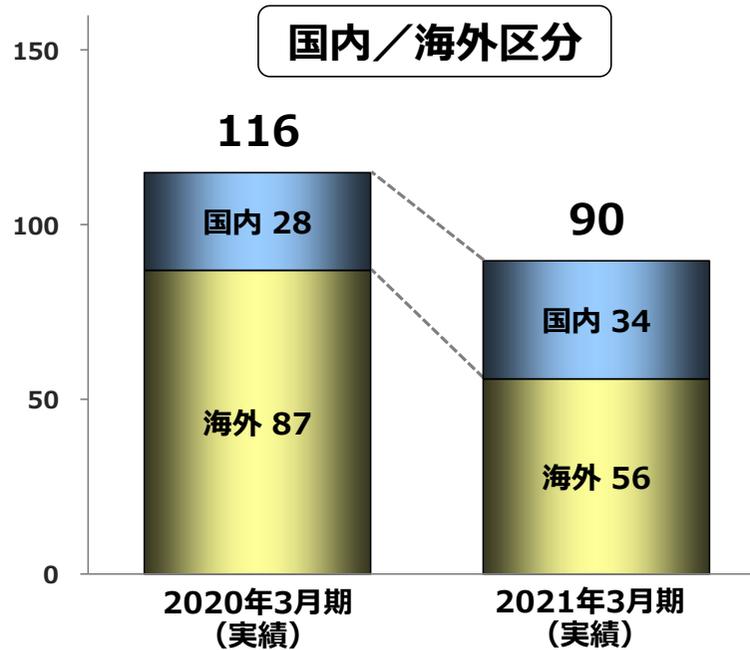


# 2021年3月期 連結財政状態計算書

	2020年3月	2021年3月	増減	コメント
資産合計	1,172億円	1,264億円	+92億円	営業債権及びその他の債権 +93億円 棚卸資産 +28億円 現金及び現金同等物 -34億円
負債合計	563億円	614億円	+51億円	営業債務及びその他の債務 +53億円 引当金 +26億円 借入金 -46億円
親会社持分	474億円	527億円	+53億円	包括利益 +53億円
非支配持分	135億円	124億円	-12億円	包括利益 +3億円 配当 -8億円 SGM株式追加取得 -6億円
資本合計	609億円	650億円	+41億円	—————
負債及び資本合計	1,172億円	1,264億円	+92億円	—————
有利子負債残高	209億円	162億円	-47億円	日本 -22億円 米州 -26億円
親会社所有者帰属持分比率	40.4%	41.6%	+1.2%	—————
有利子負債依存度	17.8%	12.8%	-5.0%	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	1,973円	2,200円	+227円	—————

# 2021年3月期 連結設備投資 実績

(単位：億円)



【投資の内訳】

	2020年3月期 (実績)		2021年3月期 (実績)	
	国内	海外	国内	海外
特別	5	38	11	9
新機種	8	20	6	16
体改	1	6	1	14
一般	14	23	16	17
計	28	87	34	56
合計	116		90	

【主な投資内容】

目的区分	地域	内容	金額
特別	日本	大型設備導入	10
	中国	能力拡充投資	6
新機種	日本	四輪新機種投資	3
	日本	二輪新機種投資	5
	米州	四輪新機種投資	4
	中国	四輪新機種投資	7
	アジア	四輪新機種投資	1
	アジア	二輪新機種投資	4
体改 一般	日本	更新投資	5
	米州	体質改善	7
	中国	更新投資	5
	アジア	更新投資	7
その他			26
合計			90

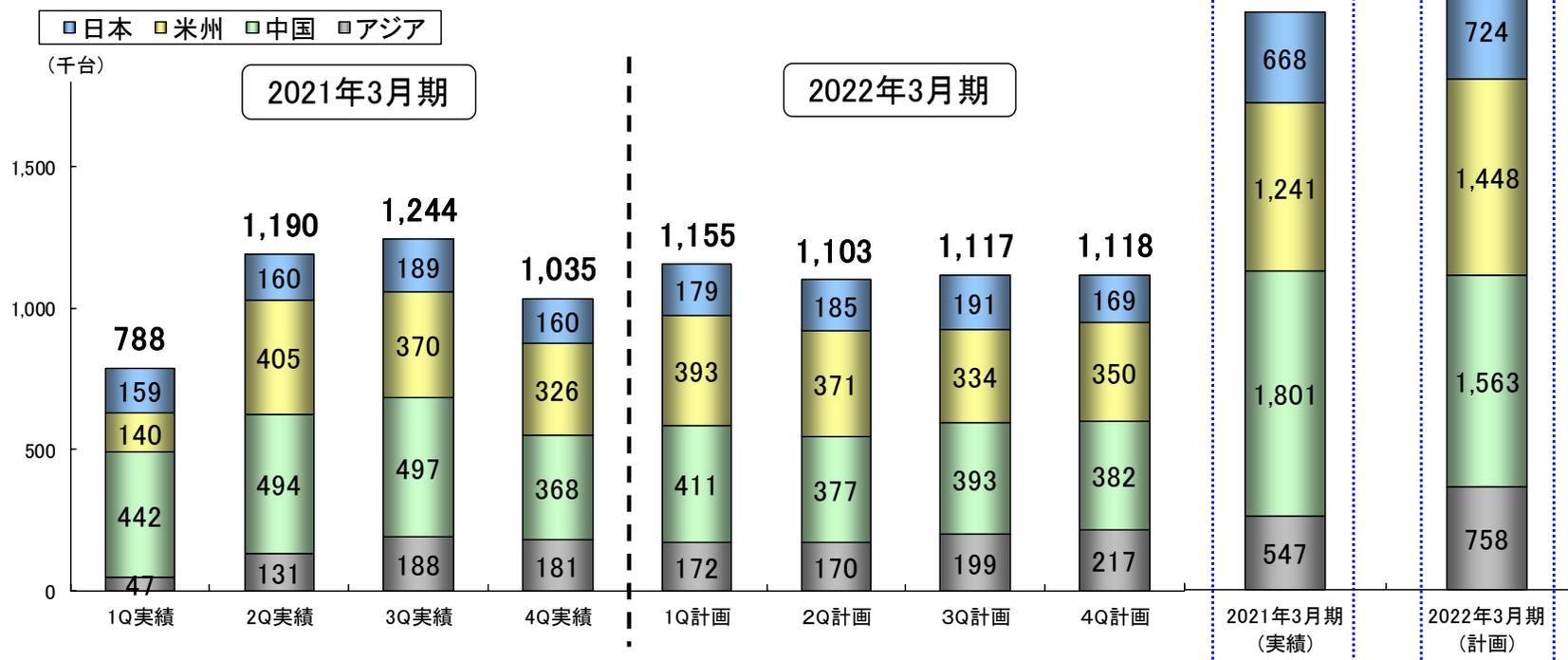
- 2021年3月期 連結決算
- 2022年3月期 連結業績見通し

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	1,572億円	1,500億円	<b>-72億円</b> (-4.6%)
営業利益 (対売上収益比率)	+56.3億円 (3.6%)	+65.0億円 (4.3%)	+8.7億円 (+15.5%)
税引前利益 (対売上収益比率)	+61.1億円 (3.9%)	+64.0億円 (4.3%)	+2.9億円 (+4.7%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	+6.7億円 (0.4%)	+14.0億円 (0.9%)	+7.3億円 (+110.3%)
為替レート (USDドル)	106円	105円	1円 円高

# 2022年3月期 燃料タンク 売上台数&売上収益 見通し

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	4,257千台	4,493千台	+236千台 (+5.5%)
日本	668千台	724千台	+56千台 (+8.4%)
米州	1,241千台	1,448千台	+207千台 (+16.7%)
中国	1,801千台	1,563千台	-238千台 (-13.2%)
アジア	547千台	758千台	+211千台 (+38.4%)
売上収益	443億円	426億円	-17億円 (-3.8%)
内、為替影響	-	-13億円	-4億円 (-0.9%)

← 実質的な売上減

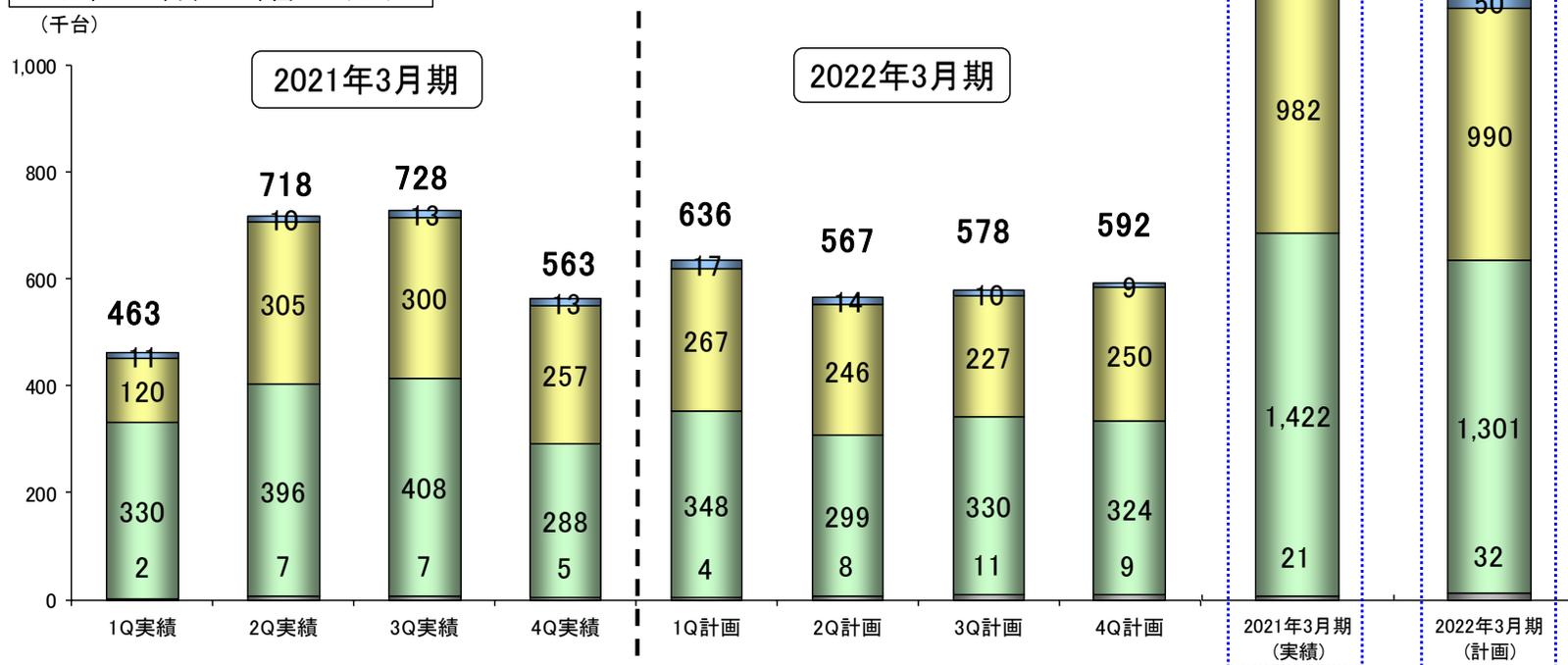


# 2022年3月期 サルーフ 売上台数&売上収益 見通し

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	2,472千台	2,373千台	-99千台 (-4.0%)
日本	47千台	50千台	+3千台 (+6.4%)
米州	982千台	990千台	+8千台 (+0.7%)
中国	1,422千台	1,301千台	-121千台 (-8.5%)
アジア	21千台	32千台	+11千台 (+%)
売上収益	506億円	458億円	-48億円 (-9.4%)
内、為替影響	-	-17億円	-31億円 (-6.1%)

← 実質的な売上減

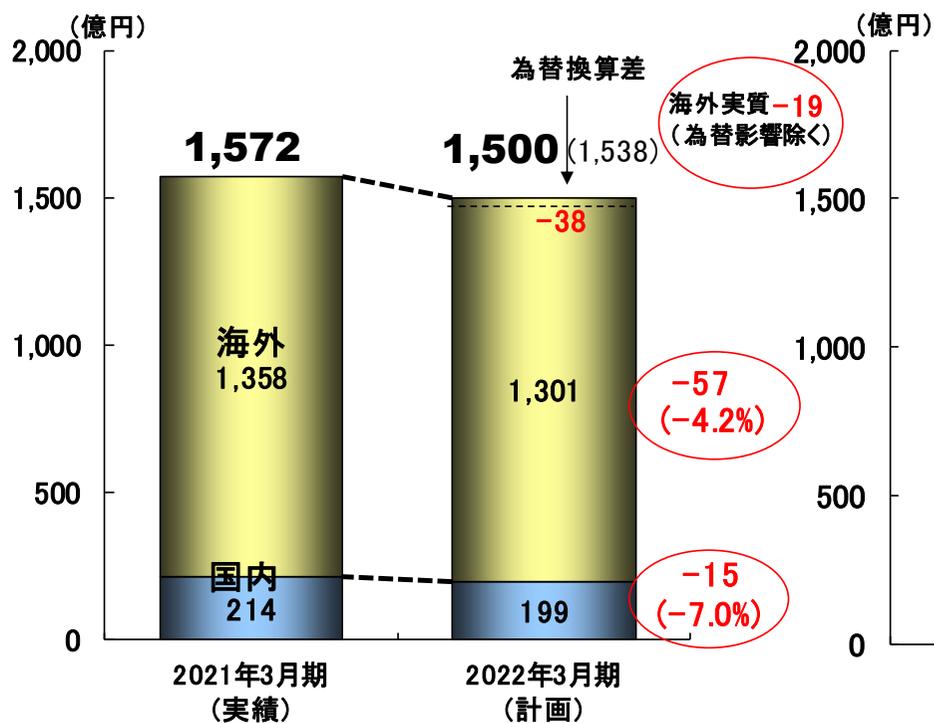
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア  
(千台)



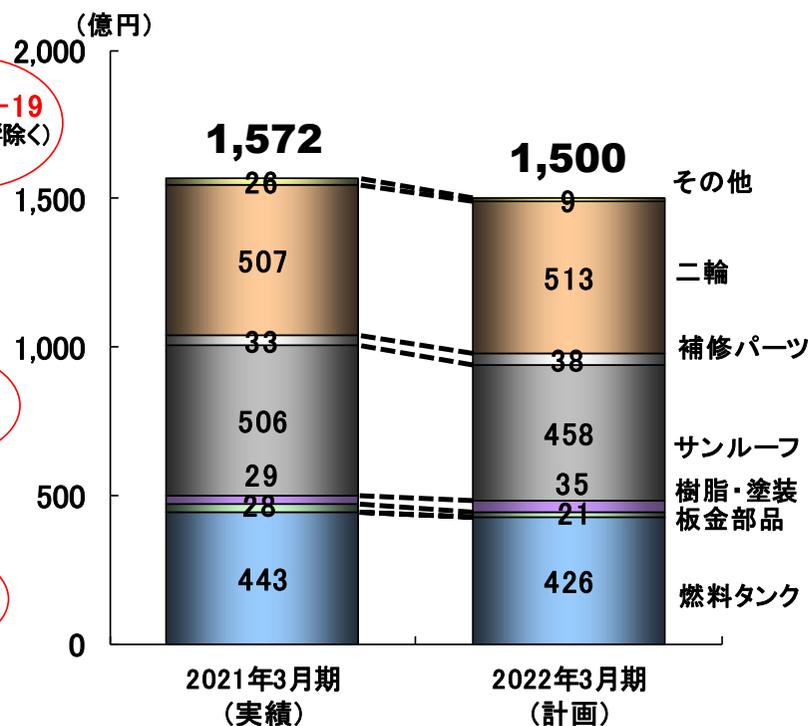
# 2022年3月期 製品別売上見通し

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
売上収益	1,572億円	1,500億円	-72億円 (-3.7%)

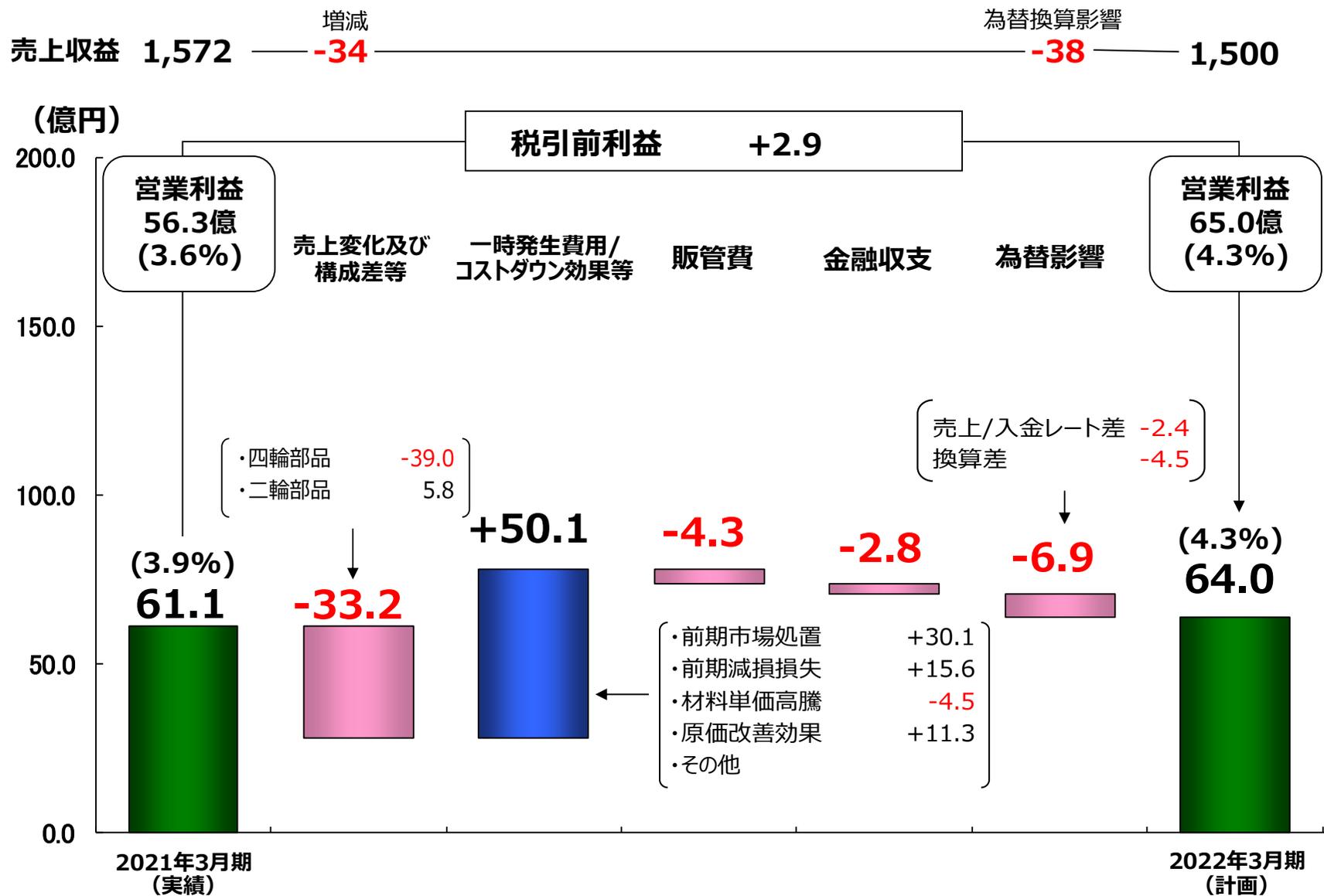
## 国内／海外区分



## 部品別区分

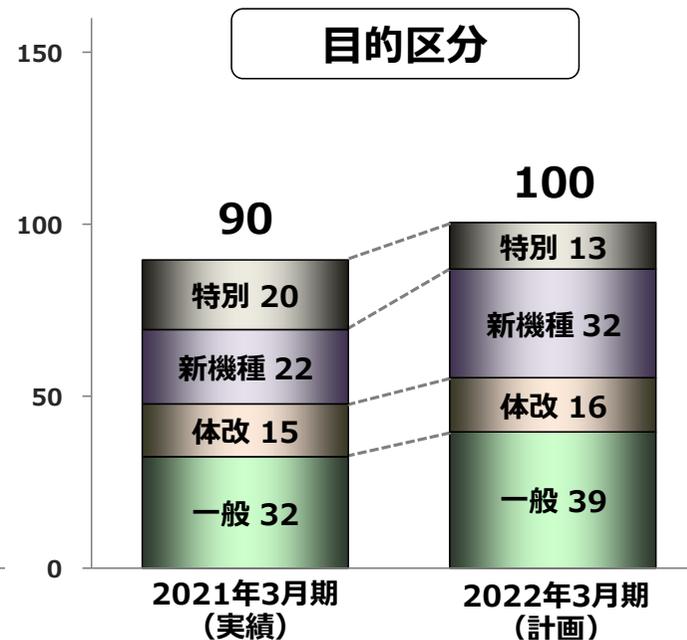
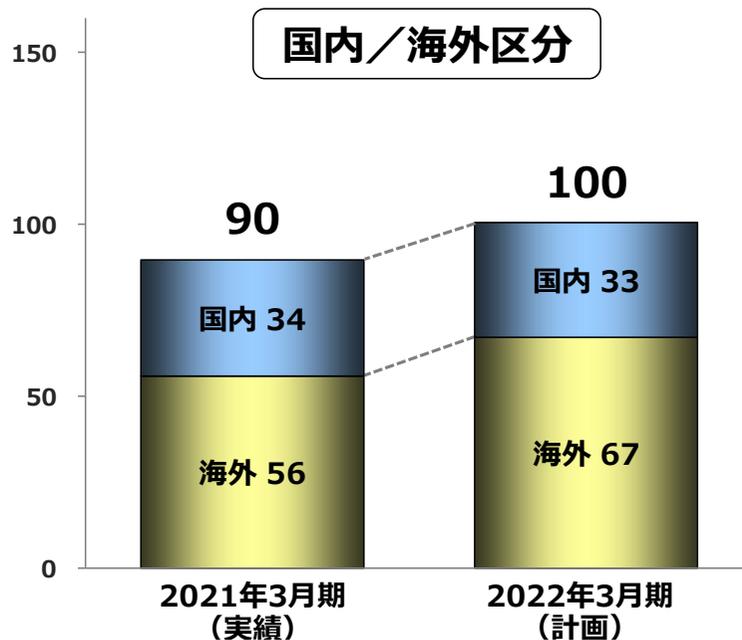


# 2022年3月期 連結税引前利益増減要因 前年度比



# 2022年3月期 連結設備投資見通し

(単位：億円)



【投資の内訳】

	2021年3月期 (実績)		2022年3月期 (計画)	
	国内	海外	国内	海外
特別	11	9	4	10
新機種	6	16	10	22
体改	1	14	6	10
一般	16	17	14	26
計	34	56	33	67
<b>合計</b>		<b>90</b>		<b>100</b>

【主な投資内容】

目的区分	地域	内容	金額
特別	米州	能力拡充投資	6
	中国	能力拡充投資	4
	日本	能力拡充投資	3
新機種	日本	四輪新機種投資	3
	日本	二輪新機種投資	6
	米州	四輪新機種投資	6
	中国	四輪新機種投資	10
	アジア	二輪新機種投資	5
	アジア	四輪新機種投資	2
体改 一般	日本	更新投資	6
	中国	更新投資	7
	米州	更新投資	7
	アジア	更新投資	3
		その他	35
		<b>合計</b>	<b>100</b>

## 【配当に関する基本方針】

長期的な視野に立ち、今後の資金需要や連結業績を考慮しながら実施し、内部留保金については、将来の事業展開に充て更なる業績の向上を図ると共に財務体質の強化に努める。

	2020年3月期	2021年3月期 (予定)	2022年3月期 (予定)	前年度比 (増減)
中間配当金	8円	0円	(6円)	-
期末配当金	0円	(8円)	(6円)	- 2円
年間配当金	8円	(8円)	(12円)	4円
連結配当性向	-%	28.8%	20.5%	-8.3%

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

## ■ 決算説明

経理部長

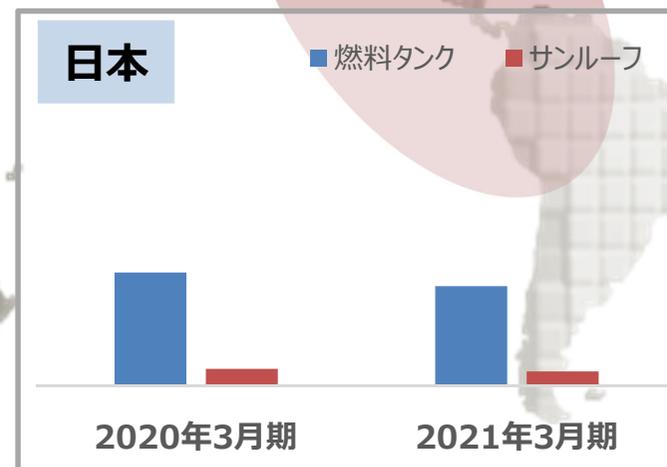
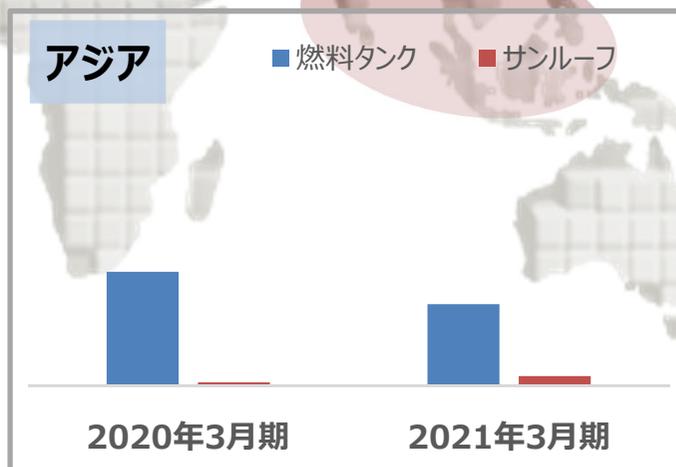
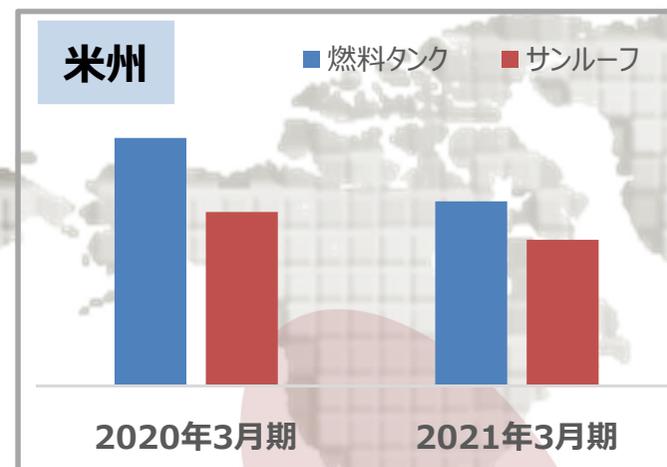
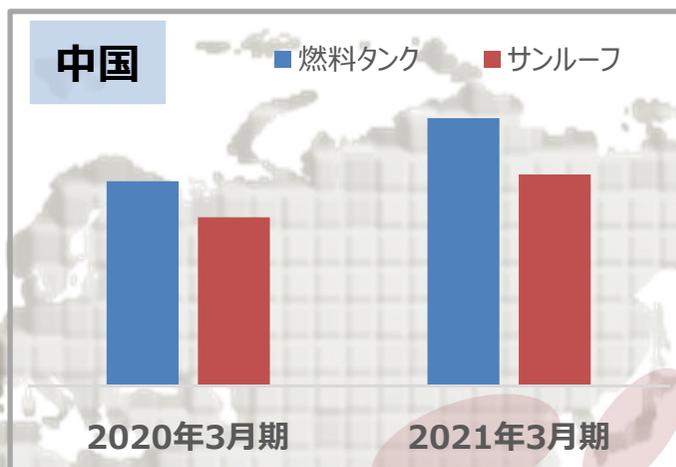
栗原 義弘

## ■ 事業の方向性

代表取締役社長

加藤 憲嗣

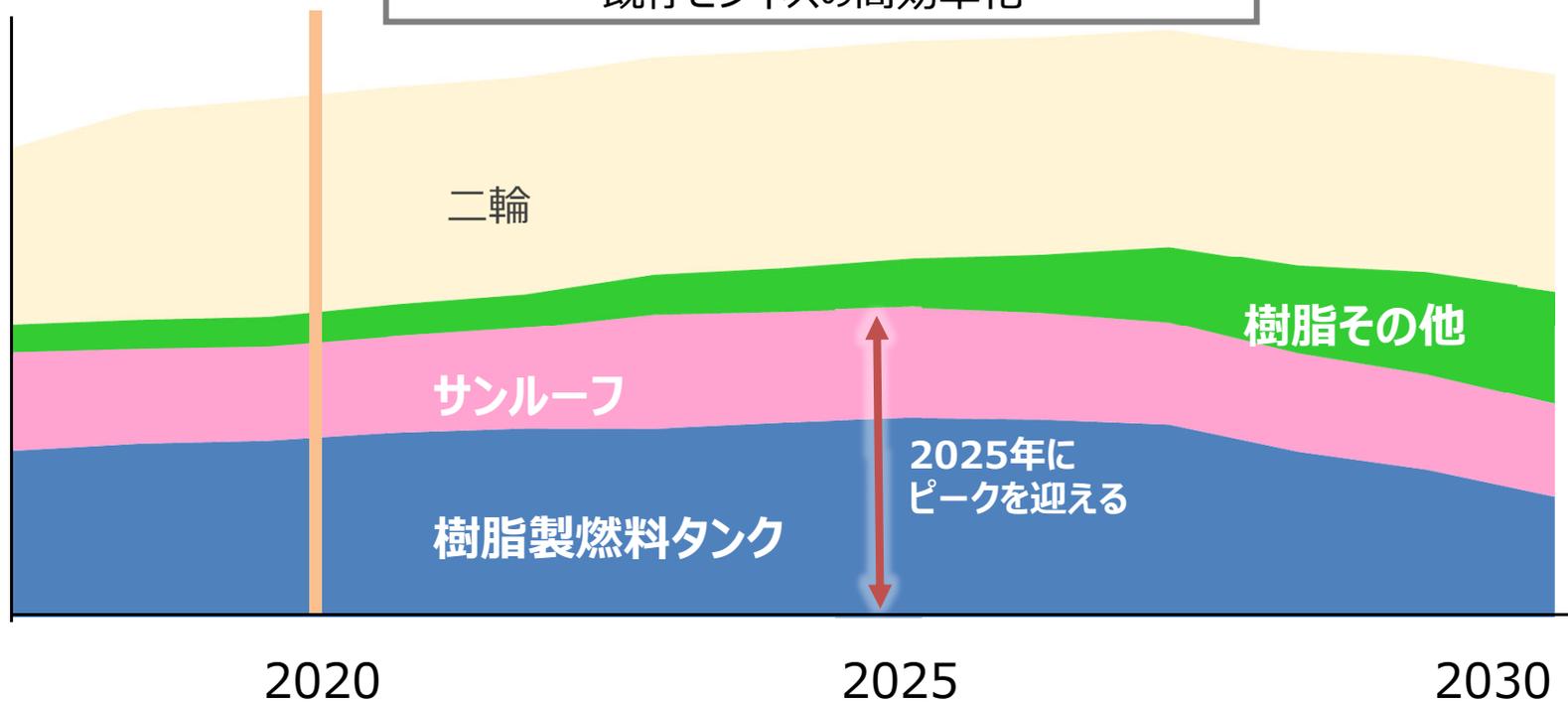
# 各地域生産台数（トレンド）



新型コロナウイルス感染拡大に起因する影響を受けた日本、米州、アジアが大きく減産

## 将来予測

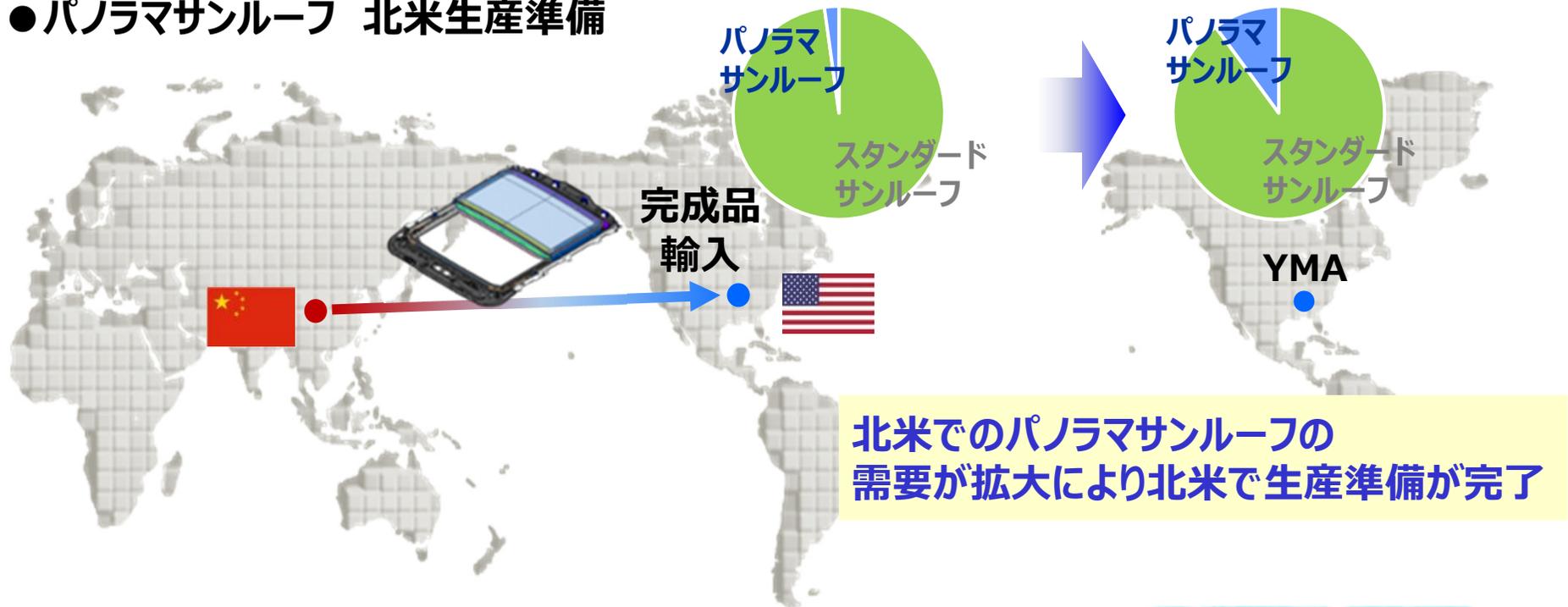
自動車の変革 (CASE、MaaS)  
↓  
電動化により燃料タンクの需要は縮小  
車両コストアップによりサンルーフ装着率減少  
↓  
企業の持続的発展のため新たな事業を開拓  
既存ビジネスの高効率化



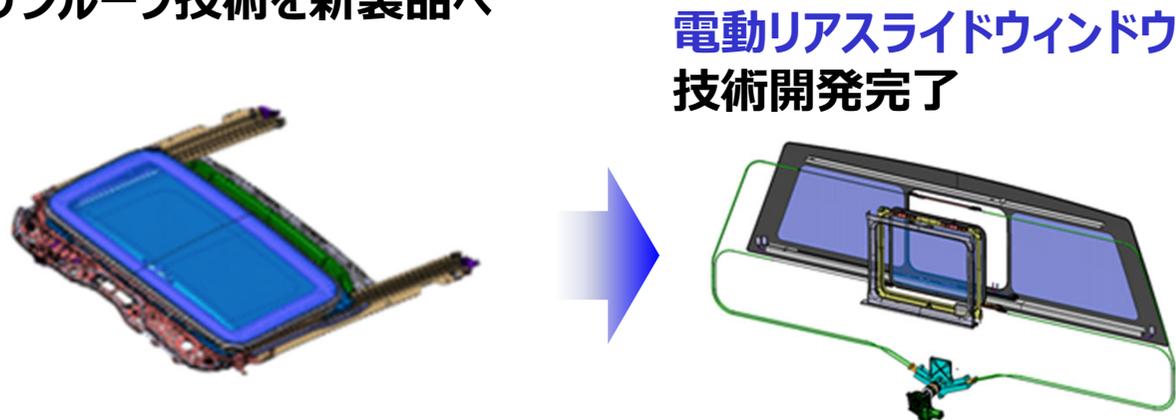
主力製品の需要は2025年頃をピークと仮定し、新たな事業分野を開拓

# サンルーフ事業における取り組み

## ●パノラマサンルーフ 北米生産準備



## ●サンルーフ技術を新製品へ



北米ピックアップトラックをターゲットに営業活動開始

リアスライドウィンドウ装着市場規模  
北米: 100万台/年 程度

# 樹脂事業の強化（成形設備導入）

## 導入計画

項目	2020年	2021年
<b>&lt;拠点&gt;</b> サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ) 1600トン インジェクション成形機導入	インジェクション成形機 導入	生産開始
<b>&lt;拠点&gt;</b> 鈴鹿工場 3500トン インジェクション成形機導入	インジェクション成形機 導入	トライ 生産開始

## 運用状況

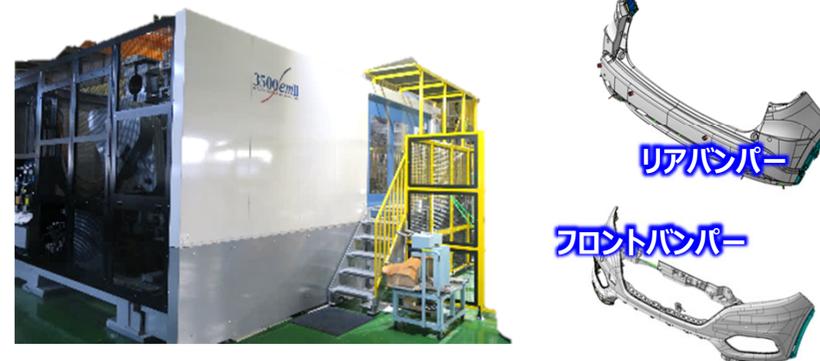
### ～1600トン インジェクション成形機～

二輪車用樹脂製品の受注拡大  
 ファミリー成形やハイサイクル化などの原価低減対応



### ～3500トン インジェクション成形機～

大型化するバンパーへの対応  
 ファミリー成形やハイサイクル化などの原価低減対応



新設備の導入を行い、継続的な受注獲得できる体制を構築

# 補修部品事業の強化（多様化する部品への対応）

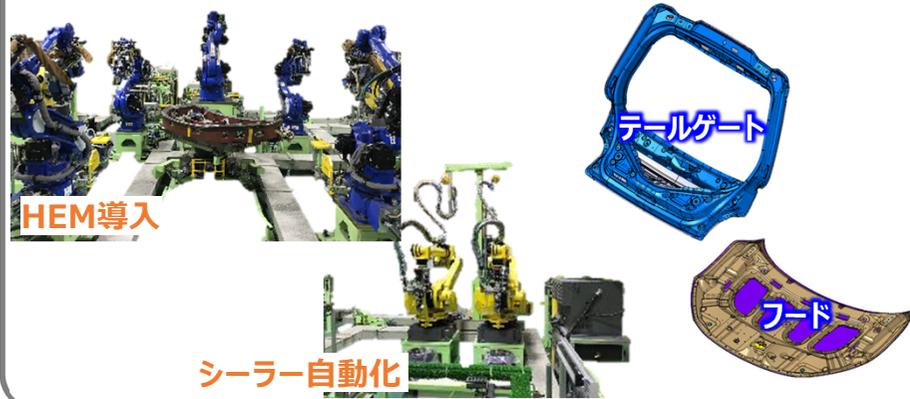
## 導入計画

項目	2019年	2020年			2021年		
<b>&lt;拠点&gt;</b> 亀山事業所 ローラーHEM機導入	HEM設備 導入	生産開始					
		シーラー自動化設備導入		生産開始			
<b>&lt;拠点&gt;</b> 亀山事業所 2,200トン プレス機導入		プレス機導入			トライ	生産開始	

## 運用状況

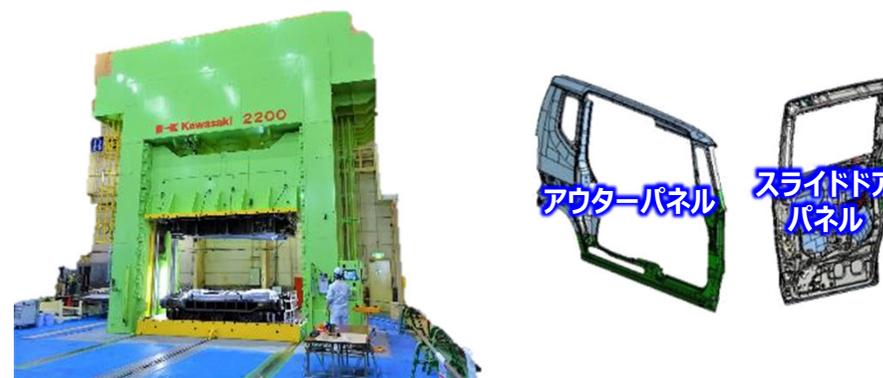
### ～ローラーHEM機～

・外板部品の製法変化に合わせて設備導入。

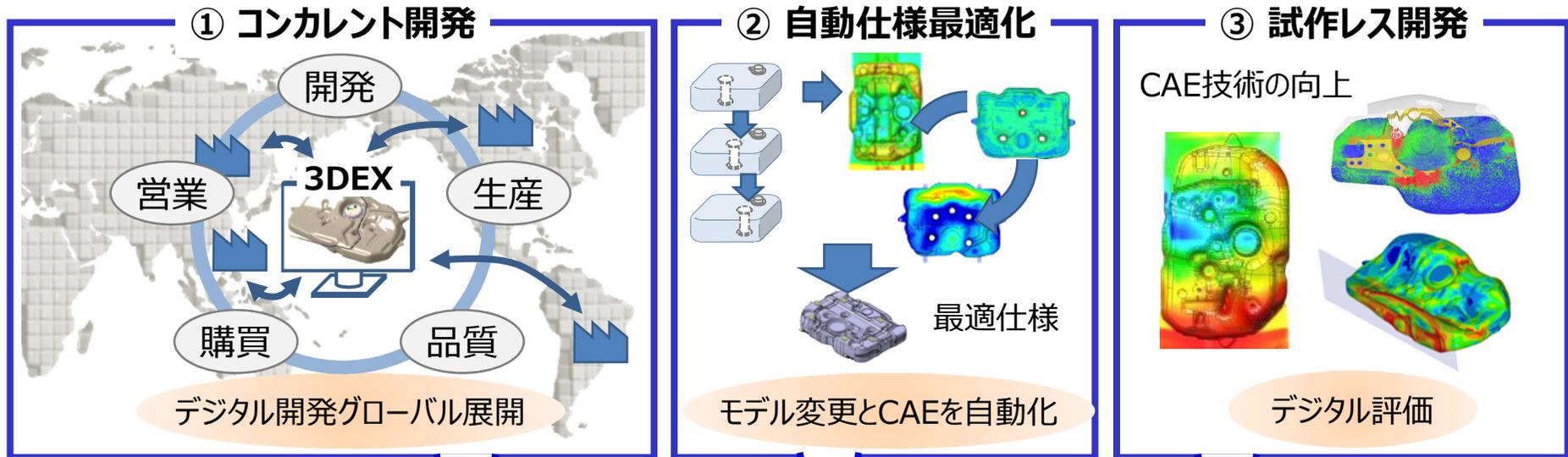


### ～2,200トン プレス機～

・大型化、ハイテン化に対応できる高荷重プレス機導入



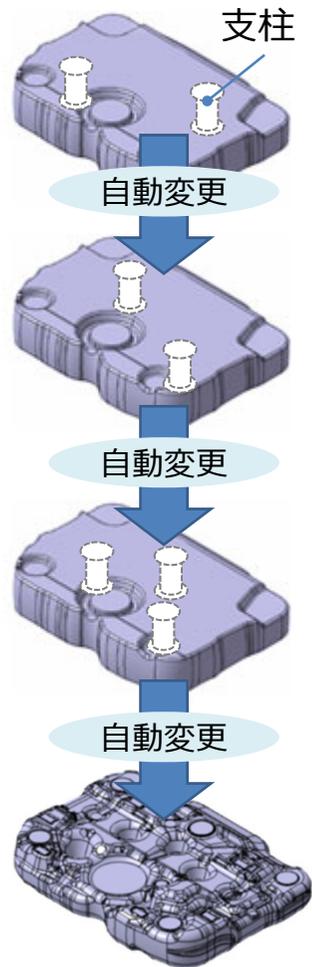
補修部品の材料・製法変化にも対応できる生産体制を構築



## 〈製品あたり開発費〉



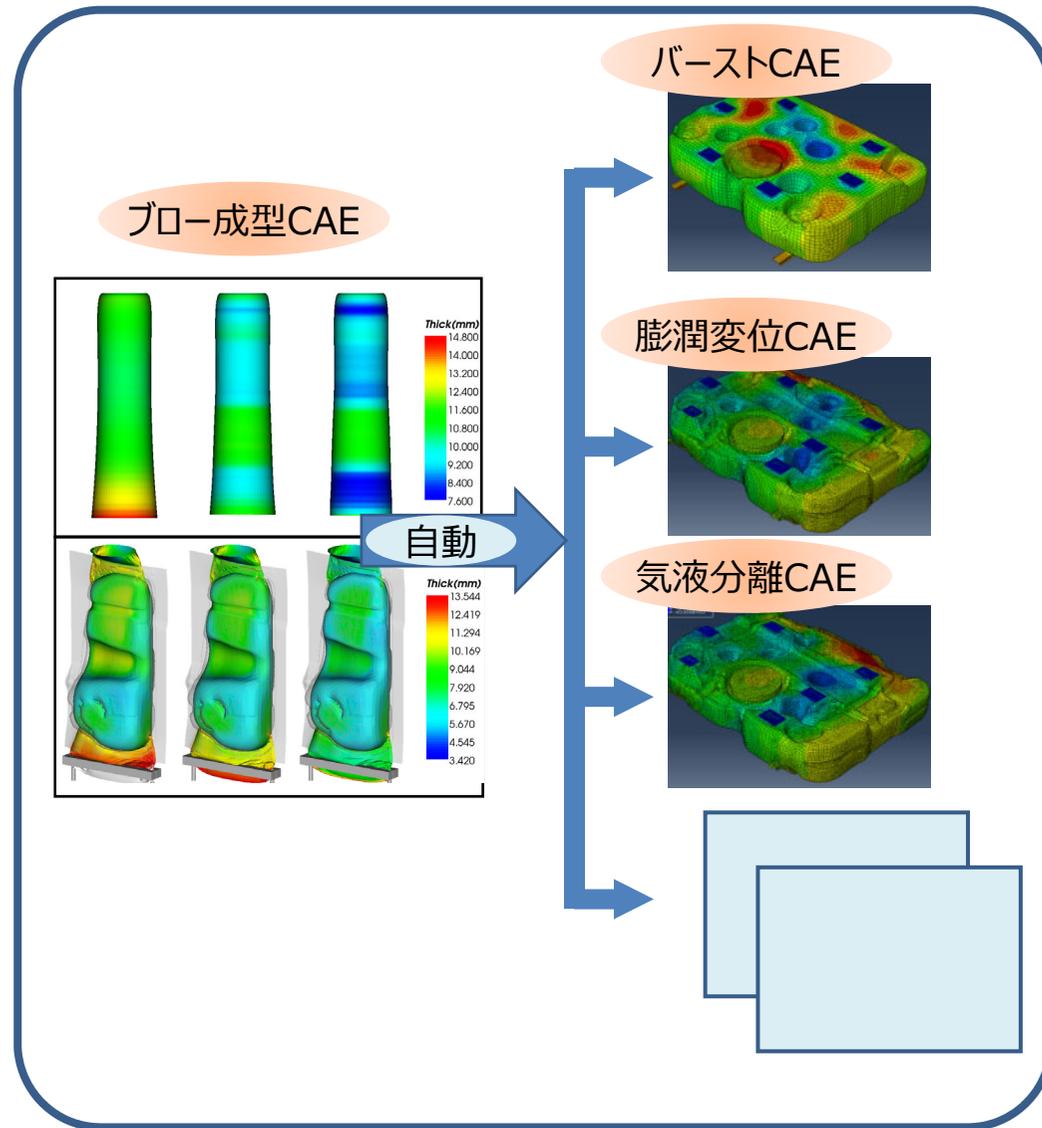
## 樹脂製燃料タンクの自動変更設計



自動計算

自動計算

自動計算



樹脂製燃料タンクの支柱位置の変更と各種性能評価を自動で行う

## 生産改革

# 現状の生産規模でも確実に収益を上げる 筋肉質な生産体質へ

### 樹脂製燃料タンクにおける施策事例

#### ハード施策

～グローバル高位平準化に向けて～

#### 成形領域

- ・拠点内フレキシブル生産体制構築
- ・均質形状化・安定冷却ライン
- ・工程シンプル化による不稼働ロス削減

#### 二次加工領域

- ・シングル/ダブル併用セルライン（中国・アジア地域）
- ・全機種対応フル自動化ライン（日本・米国）

#### ソフト施策

～徹底した原価改善に向けて～

#### Q（品質）

- ・品質基準適正化
- ・溶着保証/管理方法の効率化

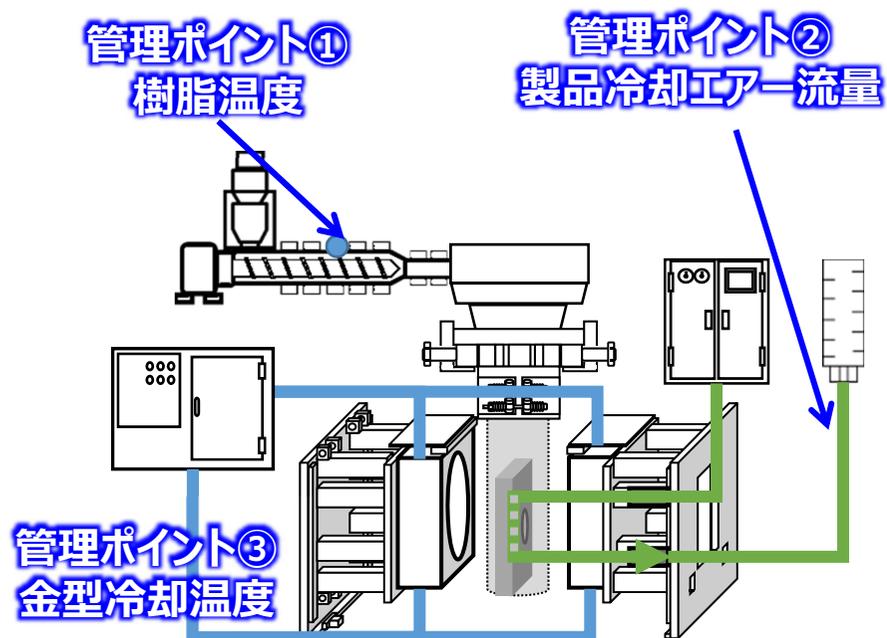
#### C（価格）

- ・樹脂材使用効率向上

#### D（納期）

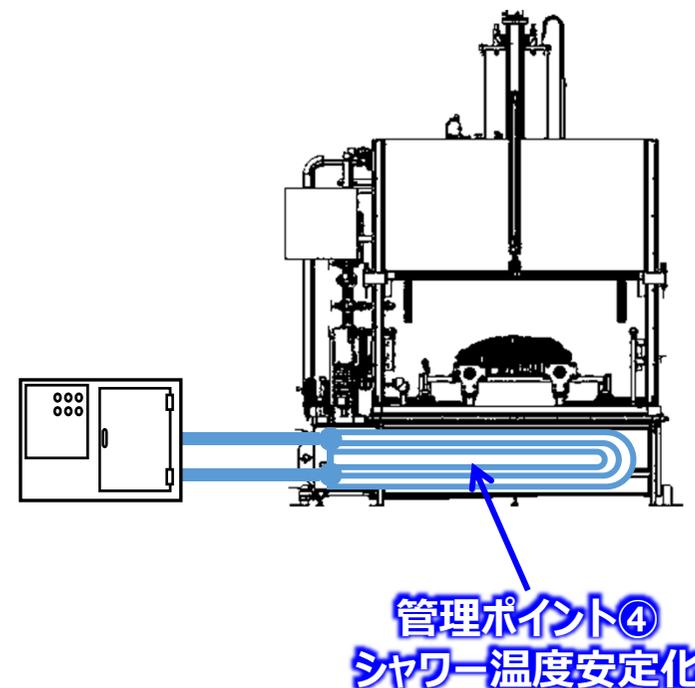
- ・機種引当て生産ラインの  
見直しによる負荷平準化

## ～成形工程～



金型取り出し温度低下  
寸法精度向上

## ～矯正工程～



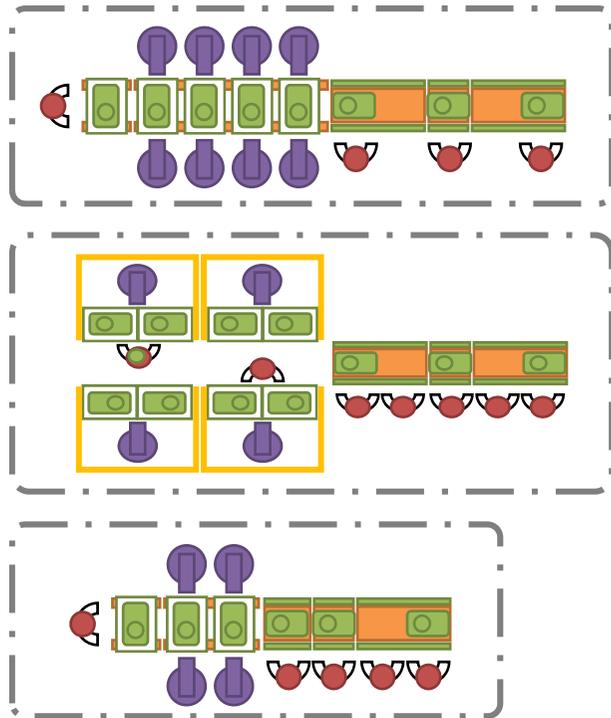
矯正時温度安定化  
寸法バラツキ抑制

形状の安定化に対して影響の大きい管理ポイントを全拠点で統一化

機種ごとに工数バラバラ

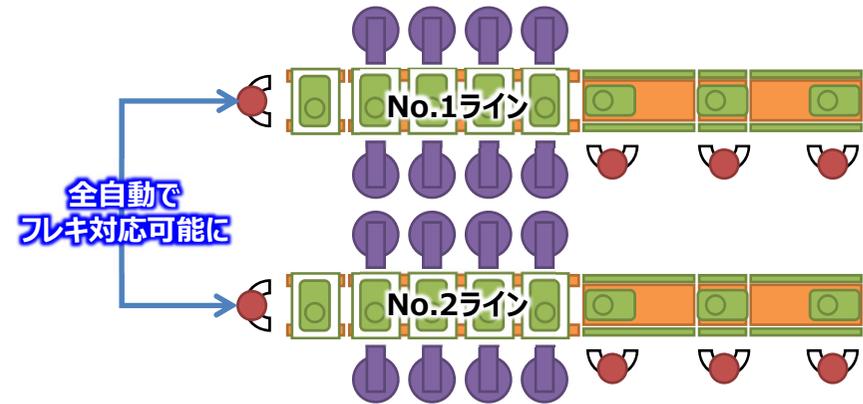


拠点内に複数仕様の生産ライン



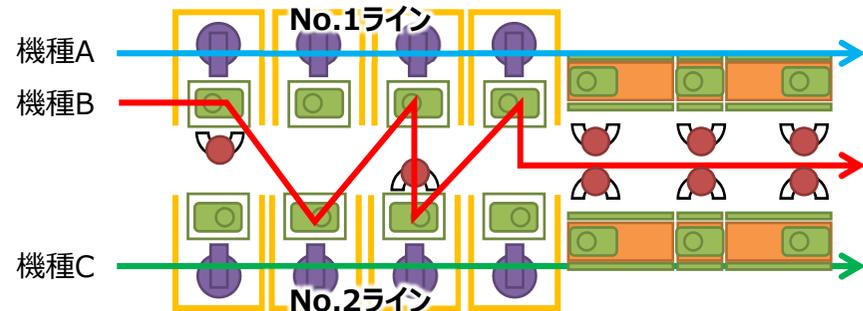
**生販変動・仕様変化への追従が困難**

<全機種対応フル自動化ライン（日本・米国）>



**ライン間の仕様を統一しフレキ生産を実現**

<シングル/ダブル併用セルライン（中国・アジア地域）>



**加工工数機種に合わせ人搬送でフレキシブル生産を実現**

地域特性に合わせたライン形態を採用し、フレキシブルな生産出来るようにライン間の仕様統一

# トピックス

---

## 日本

- ・ポスティング活動  
コロナ禍での不安を抱える近隣宅にメッセージをお届け



## 中国

- ・地元小学校へ学習用品の寄贈



東日本大震災発生から10年となる今年、  
当時の活動に感謝のお言葉を石巻市長よりいただく。

2011年3月11日  
あの日、すべてが変わってしまいました  
「行ってきます!」と出てきた空も、「いってらっしゃい!」と見送り、見送ってくれた家路も、見慣れた景色も、さっさと舞っていた戦場も、仲間も  
どれか一つ欠けても立ち直れないような出来事、一度にすべて失ってしまった人が、あの日どれほどいたでしょう  
現状を知らねばほど、絶望と深い苦しみに暮れる私たちに、被災後すぐに、国や県、地帯町村をはじめ、様々な企業・団体・個人の皆さまが、国内国外から、支援の手を差し伸べてくださいました  
ごんなんも、私たちが想ってくれる強いつながりがあることを、私たちが震災を通して知ることができたのです  
その強いつながりがあったからこそ、今日の私たちがあり、石巻市があります  
私たちは、差し伸べられた手を「決して忘れてはならない」と、そう心に刻み、生き残った者の使命として、後世へこの震災を伝承し、手を差し伸べてくださった方々へ、感謝の心を忘れずに、これからも歩んでまいります  
震災から10年、復興状況まであと一歩となりました  
10年目の区切りとして、ここに石巻市民を代表して、心より感謝を申し上げます

令和3年3月  
石巻市長 龜山 滋

どうぞ皆さん、コロナが落ち着きましたら、石巻市にいらしてください  
皆様からのご支援を、目で見て、肌で感じていただければ幸いです



当時活動したメンバー

- ・豪雨災害に見舞われた人吉地区での復興支援活動



今後も「社会からその存在を認められ期待される企業」を目指し活動を続ける

Hondaの安全運転教育用「ドライビングシミュレーター」のフレームの設計・生産を開始



Hondaメディアサイトより



- ・ 4月20日より国内の自動車教習所向けにHondaから発売。
- ・ Hondaの2030年ビジョンに掲げる「交通事故ゼロ社会の実現をリードする」に貢献。

安全運転活動もサポートし「モビリティのキーカンパニーになる」の実現に向けて歩む

## 丸山竜也 選手（陸上競技部）

### 第51回防府読売マラソン大会で優勝



**ヤチヨ初 サブ10達成**

2時間10分切り

#### 大会結果

**優勝 丸山 竜也（八千代工業）**

2位 川内 優輝（あいおいニッセイ同和損保）

3位 西澤 佳洋（小森コーポレーション）

：



## 土田和歌子 選手

### TOKYO2020で2種目出場を目指す



パラトライアスロン



車いすマラソン

・大分車いすマラソン2020 **優勝**

・Challenge Tokyo Para **2位**

42.195km in 立川



引き続き陸上競技部と土田和歌子選手の活躍にご注目ください

